

平成27年度 キャリア教育推進地域事業推進校

研究テーマ

学校名： 須崎市立新荘小学校

自己表現力の育成

本校キャリア教育目標 ①自尊感情の豊かな児童の育成 ②コミュニケーション力の育成 ③自助・共助の力の育成

1. 取組内容

<本校のめざすキャリア教育>

学校で様々な姿を見せる子どもたちの背景には、時代を反映した社会の問題や貧困・虐待など人権や生活の問題などが存在している。特に、近年は、社会環境や生活スタイル・遊びの変化によって、様々な人との交流、遊びの中での人間関係を学ぶ機会が減少するなど、子どもの社会性や人間関係力・自尊感情（セルフエスティーム）の低下が課題となっている。また、少子化や核家族化により保護者が子どもの生活にかかわりすぎたり、子どもの自主性を抑制したりすることで、人との関係に生じてくる様々な葛藤を経験することが少なくなり、仲間関係や自尊感情の希薄化の原因にもなっており、このようなことが深刻ないじめ問題や不登校の背景に存在していると思われる。

「自分が好き」という自尊感情を育てていくことは、友だちとの関係であり、学校の教育活動であり、地域や社会とのつながりだといえる。自尊感情を高めていくことが、友だち・学校・社会へと人間関係を広げていく力となり、よりよい社会づくりに主体的に参加していく力へとつながっていくはずである。

そこで、保護者・地域との“つながり”を大切にしながら、全ての子どもにとって「居心地のいい、しかも高めあえる」学校・学級を育てていくことで、子どもたちの可能性を広げる教育実践を積み重ねていきたい。

3年目となった本年度は、学級活動の授業研究や音読・発表集会の研究推進を図り、児童一人ひとりのレベルアップをめざすよう取り組みをすすめた。

<ねらい>

○豊かな体験を通して、自己理解を深め、自ら向上しようとする意欲・態度を育てていく。

○様々な人々とコミュニケーションを図り、お互いを認め合い、協力していこうとする態度を育てる。

（主に学級活動・学校行事・国語・生活科・総合的な学習の時間の中で）

（1） 取り組み

① 音読・発表集会

各学年が年間に1回ずつの音読集会と発表集会を担当し、年間を通じて計画的に集会を実施してきた。全校の国語の時間としての取り扱いで、全教職員でコミュニケーション力のアップをめざして、共通理解しながら取り組みをすすめた。また、本年度は委員会活動の発表も取り入れ、これまで以上に全校での学びの時間を意識して取り組んだ。集会では発表を受けて感想を言う場面を意図的にしくみ、低学年でも回を重ねるごとに、その場で自分の意見を述べる力・聞く力がついてきている。



1年生の初めての発表
「自己紹介」



感想を発表している様子



たくさんの地域の方や
お家の人に見てもら
うのも大きな励みです

② わくわくチャレンジの取り組み（5学年）・・・米づくりを通して

全ての活動に、家庭・地域（老人会・婦人会・住民会議など）への協力依頼を行っている。栽培活動や調べ学習、地域の方々との触れ合いなどを通して、地道な勤労の大切さや地域の方のあたたかさに気づき、人と関わる力、積極性、伝え合う力などを育てていくようにしている。

◆田植え（5月11日）

5年生保護者、地域の老人会、婦人会など地域みなさんに協力いただいて、泥だらけになりながら、4年生児童と7アールの田に手作業でもち米の苗を植えた。今年は、田植えの前に泥んこレクや泥んこラジオ体操も行った。ラジオ体操は全国ラジオ体操コンクールにも応募するなど日頃できない経験を楽しみながら実施・情報発信できた。田植え後の市道の清掃や道具の片づけも積極的に行い、活動後は協力していただいた方々に感謝をこめてお礼の手紙も書いた。



◆案山子づくり（7月14日）・案山子立て（9月4日）

大事な稲を鳥などの害獣から守るため、案山子と作る提案が児童からあり、老人会のみなさんに学校にきていただき、案山子づくりに取り組んだ。体育館下にシートを広げ、3班に分かれて、準備していただいた竹の骨組みに藁で肉付けをしていった。それから白布で顔をつくり、シャツを着せ、ズボンを履かせ、マジックで表情を描き完成した。できあがった3体の案山子は、9月はじめに地域の方と一緒に田に立てることができた。



◆稲刈り（10月7日）

素晴らしい青空が広がったこの日、保護者・地域の方々20名あまり応援に駆け付けてくださり、にぎやかに稲刈りを行った。鎌を使って一株ずつ刈り取る手作業のほか、5年生全員がコンバインを使っての刈り取り作業も体験させてもらい、今と昔の作業の違いを知ることができた。



◆収穫祭（学校行事）10月31日（予定）

保護者・地域の方々の協力のもと、全校（縦割り班活動）で収穫を祝うもちつき大会を行う。上級生

は下級生をリードしながら、元気な掛け声といっしょにもちをついていく。また、協力いただいた方々へのお礼として、バックつめに巻く帯を作成し、当日は一人ひとりに感謝の言葉を添えて手渡す予定である。(写真は昨年度のもの)



◆縄ないとリース作り(12月)

稲刈りのあとに残った稲わらを使い、老人会の方を講師に「縄ない」に挑戦する。児童はおじいちゃんおばあちゃんのスゴ技に驚き、目を輝かせる。手を添えてもらい、四苦八苦しながら全員で約100本の縄を編み上げた。その縄を使い、正月用リースを作る。リース作りには、6年生も協力し、婦人会、老人会のみなさんにお礼のメッセージを添えて、合計45個のリースを届ける予定。できあがった作品は手作りのあたたかや子どもらしさに溢れ、例年みなさんに喜ばれている。

(写真は昨年度のもの)



◆もち米の販売活動(12月)

子どもたちの言葉でチラシを作成し、須崎市広報と一緒に新荘公民館から校区の全世帯に配布していただく。販売日には多くの方が来校され、児童は元気に対応し、用意したもち米は例年完売となる。

(写真は昨年のも)

◆学習のまとめの発表(2月19日発表集会) 予定

③ 地域の方々との交流活動

◆ふれあいの集い(10月16日)

本校では、毎年「新荘憩いの里」老人会のみなさんや新荘公民館のみなさんに来ていただき、ふれあいの集いを開催している。

<ねらい>

①地域の人々とふれあい、いろいろな体験を通して、児童の豊かな感性を育てる。

②おじいさん、おばあさんとの交流を楽しむ。

今年度も児童からの希望をもとに7つの活動(木工・紙鉄砲・水鉄砲・竹とんぼ・手芸・おやつ作り・昔遊び)が用意された。どの活動も、名人さんの技ややさしさにふれながら、子どもたちは目を輝かせいきいきとした姿を見ることができた。活動後は、それぞれのグループでできあがった作品の紹介と感想を発表し、来ていただいたみなさんに感謝とお礼の言葉を送った。



＜児童のお礼の手紙から＞

- いち川さん、ふれあいのつどいのはきは、お手玉をおしえてくれてありがとうございます。あれからお手玉ができるようになりました。ありがとうございます。来年もよろしくおねがいします。

（2年・男児/昔あそび）

- ふれあいの集いではお世話になりました。僕は紙鉄砲を作るのが2回目で、去年より上手に作れて、去年よりもとんで、田部さんにほめてもらってうれしかったです。来年もぜひ来てください。

（5年・男児/紙鉄砲）



◆グループホームとの交流

学校近くにあるグループホーム新荘の里との交流を毎年行っている。各学年の趣向をこらした出し物の発表をし、高齢者の方とのふれあいの時間を大切にしている。ホームの方々も子どもたちが訪問するのを楽しみにしてくださり、訪問後はいつも温かい気持ちで学校に帰ることができている。体験を通して思いやりの心も育ってきていると感じる。



4年生は音楽の発表や手遊び、肩たたきをしました



1年生は「おおきなかぶ」の劇をしました

◆読み聞かせ・朗読会

月に2回程度、朝読書の時間に、地域のボランティアの方の読み聞かせ活動を行っている。いろんな分野の本を用意していただき、児童はとても楽しみにしている。8月の平和登校日には、地域の朗読の会の方の平和学習に関する朗読もしていただき、有意義な時間を過ごした。3月にはお礼のためのありがとう集会を計画している。



読み聞かせ・平和集会での朗読

④ 互いの良さを認め合い、共に高め合う特別活動

今年度は、学級活動を中心として自己表現力の育成に取り組んだ。本校の考える自己表現力とは

- 学級活動を中心として、全教育活動の中で育てる。
- 自分の考えをもって話し合い活動に参加し、お互いに折り合いをつけることができる力
- 考えを表現する方法を自分で選び、場に応じて使うことができる力
 - ・言葉で伝える
 - ・絵や図を使って伝える
 - ・動作化する

である。そのために、4月の学級開きからスタートし、学級目標、学級会の名前、学級の歌を各学級で作りに上げてきた。校内研修では「学級活動の基礎学習やグッズづくり」を4月にもち、全校で統一して学級会のあり方・つきたい力を研究・確認してきた。研究授業としては次の内容で、土佐教育研究会特別活動部の石村会長をはじめ部会の先生方、中部教育事務所、須崎市教育委員会の指導主事のみなさんを講師に招聘し、実践研究を積み重ねてきた。

日時	研修内容（授業研）	講師
4/22	基礎学習・グッズづくり	土佐研特活部 会長 石村 久子
5/13	ユニバーサルデザイン授業	元越狭小校長 山中 千枝子
5/26	学級活動①（5年：合宿バスの中で、吾桑小学校の5年生と楽しく交流しよう）	國學院大學 杉田 洋 教授
6/3	算数科（わかあゆ：時刻と時間）	
6/11	学級活動①（4年：4年生みんなで学級の歌を作ろう）	土佐研特活部 石村 久子会長
6/25	学級活動①（6年：今までにない楽しい出店のゲームを考え、みんなに喜んでもらおう）	土佐研特活部 石村 久子会長 潮江南小 弘瀬直美主幹 五台山小 加藤利都教諭
7/8	学級活動①（2年：なかよしスポーツ大会をしよう）	中部教育事務所 高橋友理子指導主事
9/11	学級活動①（3年：クラスがもっと楽しくなる係を決めよう）	土佐研特活部 石村 久子会長
10/14	学級活動②（1年：てをきれいに）	土佐研特活部 石村 久子会長
11/13	第12回四国地区特別活動研究大会 第48回高知県特別活動研究大会	國學院大學 杉田 洋 教授

＜研究授業の様子＞



合宿バスの中で、吾桑小学校の5年生と楽しく交流しよう（5年）



クラスがもっと楽しくなる係を決めよう（3年）



てをきれいに（1年）

2. 成果

(1) 音読・発表集会の取り組み

- ・発表学年はめあてをもって頑張りの見える発表ができています。発表内容も児童の発想が活かされ、工夫ができています。ずいぶん人前で表現することに抵抗が少なくなってきた。地域のみなさんや保護者のみなさんがたくさん来てくれることで、子どもたちの励みにも、いい緊張感にもつながっている。
- ・聞き手の児童も、回を重ねるごとに感想の内容がよくなってきた。めあてについてや表現の仕方、発表の工夫などを意識して聞く力が育ってきている。

(2) 地域との連携を深める取り組み

- ・地域の子どもたちをみんなで守り育てていこうという意識が高く、様々な行事に対して非常に協力的である。地域の方とのふれあいを通して、子どもたちの「大切にされている」「認められている」気持ちが自然と養われているように思う。本年度は、出会いをより豊かにしていくために、お互いに名札を付けることだけでなく、名前で呼び合うことを意識して取り組んだ。そのことで、日常的に地域の中で固有名詞で呼び合える、今以上に身近な存在として地域の人との出会いを仕組んでいけると感じている。

(3) 互いの良さを認め合い、共に高め合う特別活動の取り組み

- ・実践活動を通して、児童が自主的に活動する姿や多様な考えを持つことができた。どの学級でもお互いの話を聞き、自分の意見を主張し、みんなで話し合う姿勢が育ってきている。
- ・司会や記録の役割を輪番制で全員が体験することで、どの子にも力がついてきた。
- ・お互いの意見を認め合い、そこから折り合いをつけ、自己決定していくという話し合い活動を通して、一人ひとりの成長が見られた。
- ・委員会活動の中でも、これまでの活動にひと工夫させることで、全校を巻き込んだ意欲的な活動につながった。環境美化委員会では朝や休み時間を利用して「縦割り班草ひき大会」計画し、楽しく環境整備に取り組んだ。また、抜いた草をはかりで計量し、校内に掲示したり、新聞記事に投稿したり、評価や情報発信にも工夫を凝らして取り組んだ。



3. 課題とその改善策

- ・係活動の活性化によって、子どもたちの生き生きした姿が見られ、ユニークな取り組みの工夫も見られた。楽しく学校生活を送ることができる児童も増えてきているが、自発的な係活動には課題が残る。
- ・コミュニケーション力を高めるためには、場の設定や意図的な取り組み（教師が明確な目的意識をもつこと）が必要だと思う。児童にもめあてをもって取り組むことの大切さをさらに指導していかなければと感じている。まだまだ児童によって差が見られる。児童一人ひとりのレベルアップをめざす取り組みを進めていきたい。
- ・学校生活アンケートの「学校生活が楽しい」「家の人に大切にされていると思う」「自分のことが好き」の肯定的評価を見ると、昨年度よりわずかに下がっている結果がみられた。今後も、一人ひとりの児童によりそい、学校・家庭・地域が今以上にひざを交えて、新荘の子どもたちの未来について協力し合える風土づくりを育んでいかななくてはならない。
- ・今年度の研究を教職員でもう一度振り返り、共通理解をし、来年度の研究につなげていきたい。